

県医活動報告

令和元年度 女性医師支援担当者連絡会（報告）

報告 常任理事 貞永 明美
 （大分県医師会男女共同参画委員会委員）

令和元年度 女性医師支援担当連絡会 次第

日時：令和元年12月8日(日) 13時～16時30分

場所：日本医師会館大講堂

司会：日本医師会常任理事 道永 麻里

開 会

挨拶

- 議 事
1. 日本医師会女性医師支援センターの取り組みについて
 日本医師会女性医師支援センター センター長 今村 聡
 2. 「病児・病後児保育およびいわゆる学童保育に対する支援の現状」について
 日本医師会常任理事 平川 俊夫
 「女性医師支援に関するアンケート調査」について
 日本医師会女性医師支援センター 参与 上家 和子
 3. 男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援
 方策に関する調査結果について
 日本医学会連合男女共同参画等検討委員会 委員長 夏越 澄子
 4. 各団体の取り組みから
 5. 質疑応答および総合討論
 6. 総括 参議院議員 自見はなこ

閉 会

令和元年12月8日(日) 日本医師会館大講堂で開催。道永麻里常任理事の司会で開会。
 横倉義武日本医師会会長、門田守人日本医学会連合会長のご挨拶の後、議事に入った。

議事1. 日本医師会女性医師支援センターの取り組みについて

センター事業の概要、求職登録者数や就業成立状況の実績を報告。

専従職員を置くことで、3年間で約6倍の成立となったが、関東中心であったことから、各都道府県医師会との連携の重要性や復職・再研修支援施設への登録について協力を依頼された。

2. 「病児・病後児保育およびいわゆる学童保育に対する支援の現状」について

国主体の事業として企業主導型保育事業，医療従事者確保に関する事業として病院内保育所に対する補助制度などを紹介。

「医療界における男女共同参画は進んだか～女性医師支援に関するアンケート2014年調査と2019年調査から～」

日本医学会分科会，全国の大学医学部・医科大学を対象として女性医師，女性医師役職者数，割合等の調査結果を報告。

3. 男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関する調査結果について

平成30年6月4日～7月13日に129加盟学会へ実施した調査結果を報告。

4. 各団体の取り組みから

「オール大分女性医師復帰支援への取り組み」

大分大学医学部 松浦恵子先生（大分大学副学長（ダイバーシティ担当）
女性医療人キャリア支援センター副センター長）

大分大学の女性医師支援のあゆみを説明。

<p>大分大学 女性医師支援のあゆみ</p> <p>平成22年 大分大学 男女共同参画推進本部設立 <small>女性研究者支援事業採択(文部科学省)</small></p> <p>平成25年 大分大学附属病院 病児保育室「ひだまり」開設</p> <p>平成26年 大分大学附属病院 女性医療人キャリア支援センター設置 <small>(大分県補助事業)</small></p> <p>平成30年「女性医師等キャリア支援モデル構築事業」採択(厚生労働省)</p> <p style="text-align: right;">1</p>

厚労省の平成30年「女性医師等キャリア支援モデル構築事業」に採択され，女性医師だけでなく，医療従事者の勤務環境改善等の支援のため，キャリアと家庭の両立を可能とする取組を行った。その中で，子育てをしながら働く医療人の情報交換の場として開催した「イクメンパパの会」や病院の定員数に含まれず，勤務時間を自由に設定できるコースを設定できる女性医師採用サポートコースなどの取り組み，診療科ごとの復帰支援プログラムについて紹介。

①職場理解に係る取り組み

- ・リーダー研修
職場の上司を中心に現場の課題を共有し解決策を考え職場の理解を促進する為に実施
- ・イクメンパパの会(Penguins)
子育てをしながら働く男性医療人の情報交換の場として開催しており、男性の育休取得推進のための情報提供や、男性の育児と仕事との両立における問題点あるいは解決策についての話し合いをする。

5

③勤務体制に係る取り組み

- ・女性医師採用サポートコース
附属病院の医師の定員数に含まれず、勤務時間を自由に設定できるコースを設定。

利用者の感想

育児のために、非常勤パートとして勤務していましたが、このコースにより勤務時間を自由に設定できるので、家庭の事情に合わせた働き方ができました。

A医師

医師の定数に含まれないため、気兼ねなく働くことができました。

B医師

7

④診療体制に係る取り組み

- ・診療科毎の復帰支援プログラム
オーダーメイドの復帰支援を行うため、各診療科に基本となる共通様式にて復帰支援プログラム作成を依頼。
〔消化器センター内科 復帰プログラム〕

復帰プログラムの経過月

業務大項目	個別項目	2024年10月		2024年11月		2024年12月		2025年1月	
		完了	未完了	完了	未完了	完了	未完了	完了	未完了
全科共通	就業支援	(○)		(○)		(○)		(○)	
	生活支援	(○)		(○)		(○)		(○)	
	経済支援	(○)		(○)		(○)		(○)	
科別プログラム	内科系科	(○)		(○)		(○)		(○)	
	外科系科	(○)		(○)		(○)		(○)	

学内及び市中病院と共有
オール大分女性医師復帰支援制度利用者へ提供予定

8

その他として、大分県医師会・大分県・大分大学3者で大分県における女性医師支援の取り組みについて、意見交換会を開催や、大分県医師会と大学で連携し、県内全医療機関の復帰支援に関するアンケート調査実施について報告。

大分県医師会と大学との連携



大分大学医学部
全講座の教授への
協力依頼の面会



大分県医師会
架け橋



県内全医療機関への
復帰支援に関する
アンケート調査

16

大学・市中病院と連携し、オール大分で女性医師復帰の支援による大分県の人材育成・人材の好循環を目指したい。

**オール大分女性医師復帰支援による
大分県の人材育成・人材の好循環をめざして**

大分県全体で女性医師支援に関して大学・市中病院の連携

大分県全体での病院・医院での女性医師復帰協力機関(予定)



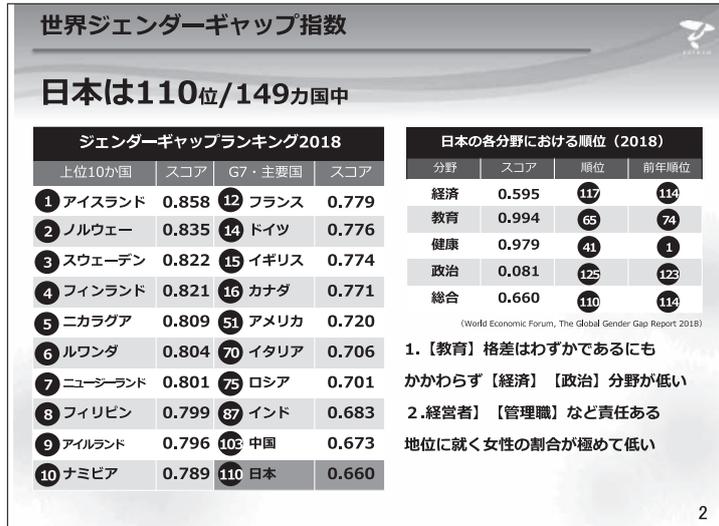
都市別	内訳
豊後高田市	10
国東市	2
速見村	1
大分郡市	48
大分県	4
佐伯市	5
豊後大野市	5
竹田市	6
日田市	8
宇佐市	3
大分市	26
別府市	15
中津市	17
総計	150

17

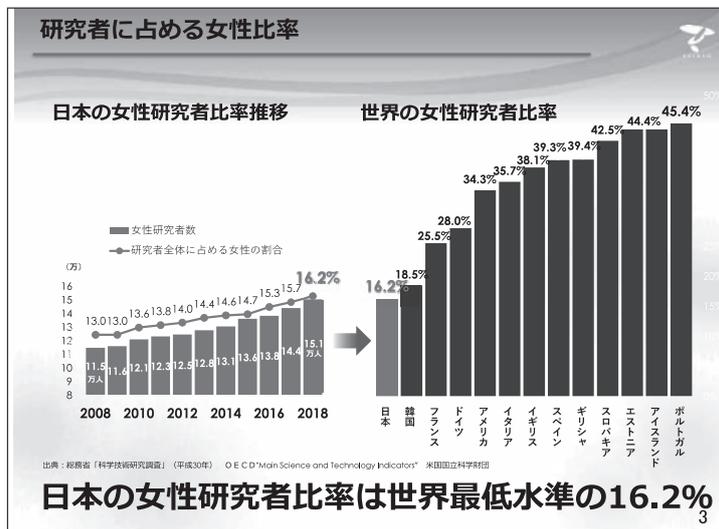
「帝京大学における女性医師・研究者支援の取り組み」

帝京大学医学部 多田弥生先生（皮膚科学講座主任教授 男女共同参画推進委員）

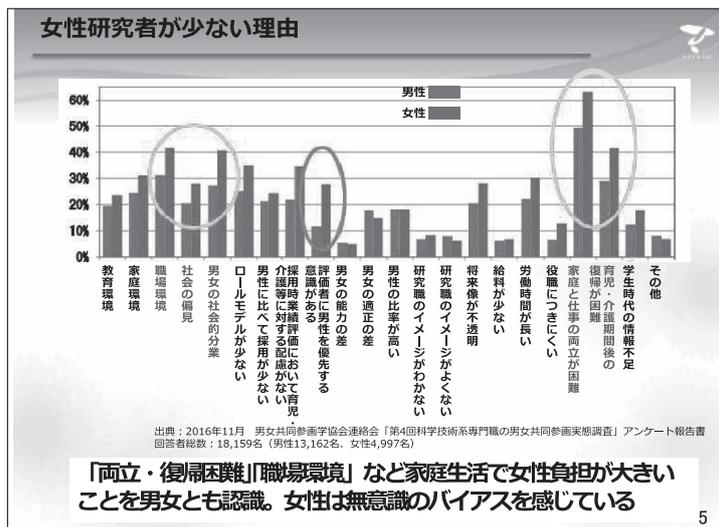
日本の教育格差はわずかであるが、ジェンダーギャップ指数は149ヶ国中110位であり、経済、政治分野のスコアが低くなっており、経営者、管理職など責任ある地位に就く女性の割合が極めて低い。



また、日本の研究者に占める女性比率は世界最低水準の16.2%である。



研究者に占める女性比率、女性研究者が少ない理由として「両立・復帰困難」「職場環境」など家庭生活上で女性負担が大きいことを男女とも認識しており、女性は無意識のバイアスを感じている。



学長提言とステアリングコミッティ

委員会ワーキンググループ4分野の検討結果を「男女共同参画推進会議」(ステアリングコミッティ)の承認を経て学長に報告。教授会を通して周知し、2~3年ごとに「男女共同参画に関する学長提言」として全学に発信。

男女共同参画に関する学長提言(平成29年4月発信)

- ①意識改革
各学部FDテーマに「男女協働」「女性登用」意識の浸透を取り上げる
- ②環境整備
女性研究者を支援する「コンシェルジュ教員」「メンター」を各学部配置
- ③教育・研究力向上
「キャリア教育」「ロールモデルセミナー」「科研費獲得指導」の実施
- ④女性比率向上
「女性採用・昇進方針」の検討と「ポジティブアクション」の奨励

12

男女共同参画推進のため、環境整備、研究力向上、意識改革・エビデンス構築を
取り組み成果とともに報告。

その他、宮崎真理子日本腎臓学会幹事長、大野和子日本核医学会評議員、片岡正川崎市
医師会副会長、今村孝子山口県医師会副会長より報告がなされ、質疑応答、総合討論が
おこなわれた。

新専門医制度におけるカリキュラム制、専門研修における「シーリング」が設けられた
ことによる人手不足の問題、働き方改革への不安とともに、基礎研修に対する支援の課題、
復職、再研修における問題点等、各現場で色々な状況、取り組みの格差もあり、環境整備、
意識改革を含め活発な意見交換がなされた。